令和6年度　長崎県立大学

学長裁量教育研究プロジェクト
「東アジアにおける長崎と平和学」

参加無料

どなたでも参加できます

令和6年
11/18
月曜日

特別学術講演会

講演時間 16:20～17:50（90分）質疑応答含む

混迷する国際情勢における平和の「リアリズム」
～映画に見る国際政治の深層構造～

講師 / **藤原 帰一** 氏

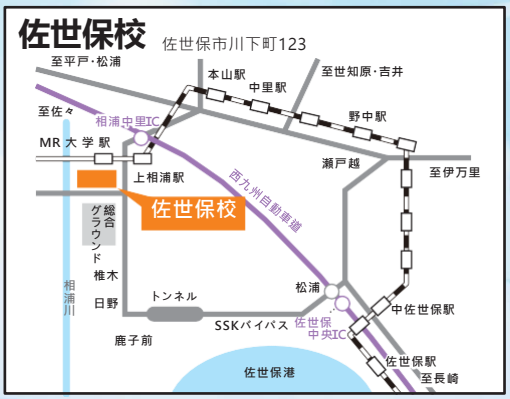
順天堂大学国際教養学研究科特任教授、
東京大学名誉教授、未来ビジョン研究センター客員教授

ウクライナ戦争（ロシアによる侵攻）、イスラエル対ハマス・ヒズボラの紛争、北朝鮮の核・ミサイル問題、台湾有事問題・・・この現実を「平和のリアリズム」でいかに読み解き、紛争解決の道を被爆地・長崎から考える

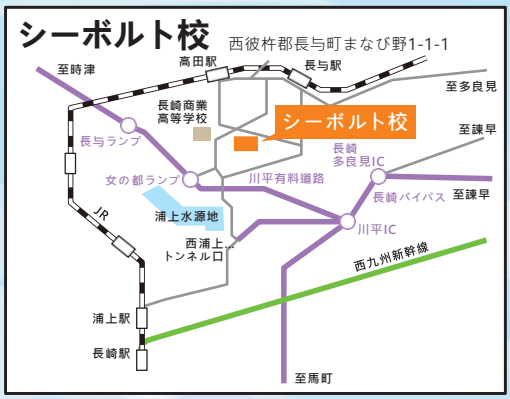
会場案内

駐車場あり

遠隔会場　佐世保校
地域交流棟1階403教室



主会場　シーボルト校
中央棟2階　M203教室



遠隔会場には主会場からWeb会議システムにより映像を配信します。

オンライン参加及び遠隔会場には主会場からウェビナー配信します。

お問い合わせ
長崎県立大学 UNIVERSITY OF NAGASAKI
シーボルト校 〈国際社会学部　河又貴洋研究室〉
TEL:095-813-5106　Email: t.Kawamata@sun.ac.jp

令和6年度 長崎県立大学

特別学術講演会 〈開催趣旨〉

参加無料
どなたでも参加できます

講演時間 / 16:20～17:50（質疑応答含む）

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、今日まで紛争は終結せぬまま混迷を深め、一方で2023年10月のイスラム組織ハマスによるイスラエルへの大規模な奇襲攻撃を機に、イスラエル軍によるガザ地区への激しい空爆と地上侵攻に発展し、イスラエル軍はその1年後にはヒズボラへの攻撃としてレバノンにも侵攻し中東情勢は混迷を極める情勢にある。そうした混迷する国際情勢の中、2024年は台湾の総統選挙に始まり、ロシアの大統領選挙、欧州連合（EU）の議会選挙や米国大統領選挙も実施される「選挙イヤー」において、国際秩序の平衡状態に影響を及ぼしかねない現実の最中にある。

それは、軍事力によるの現実主義的な紛争がぱっくりと傷口を開け、新たな秩序形成の予兆とも捉えられかねない状況ながら、今年のノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が受賞するなど紛争激化の脅威に対し紛争解決を望む活動にも焦点を当てる動きも注目され、被爆地長崎においてもこの混迷の時代に理想とする平和を現実のものとする取り組みが求められている。

本学術講演会は、「平和のリアリズム」の提唱者でもあり、映画評論んでも著名な藤原帰一氏をお招きし、昨今の国際情勢を鑑みながら「平和のリアリズム」の在り方を映画の話題にも触れ、紛争構造の深層を読み解き、理解する視座を提供いただき、本学における平和教育の機会とする。

令和6年
11/18
月曜日

【主 会 場】シーボルト校
【遠隔会場】佐世保校

混迷する国際情勢における平和の「リアリズム」
～映画に見る国際政治の深層構造～

【講師】
藤原帰一 氏
順天堂大学国際教養学研究科特任教授、
東京大学名誉教授

【経歴】
1979年 東京大学法学部卒業。
1984年 同大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学、
フルブライト奨学生としてイェール大学大学院博士課程に留学
東京大学社会科学研究所助教授を経て、
1999年から2022年3月まで同大学院法学政治学研究科教授
2024年4月より現職

【著書】
『「正しい戦争」は本当にあるのか』（講談社）2022、『不安定化する世界』（朝日新聞出版）2020、『戦争の条件』（集英社）2013、『平和のリアリズム』（岩波書店）2010（第26回石橋湛山賞受賞）、『国際政治』（放送大学教育振興会）2007、『デモクラシーの帝国』（岩波書店）2002、『戦争を記憶する』（講談社）2001
ほか多数

『これは映画だ！』（朝日新聞出版）2012、『映画のなかのアメリカ』（朝日新聞社）2006 など映画に関する著作もあり、NHK『「キャッチ！世界のトップニュース』のコーナー「映画で見つめる世界のいま」で映画界背も務める